

日本形成外科学会からの提言

会員のみなさまへ

アピアランス・サージャリー：形成外科の社会的意義

形成外科において、すべての手術と治療は整容性を意識して行われます。露出部では整容性自体が機能を果たし、非露出部でも整容性と機能は深く結びついていることを形成外科医は誰しも知っています。また、整容性は他人に対して見た目の美しさだけを示すのではなく、その機能性を通して患者自身の気持ちや精神状態に深く関係しています。

世界保健機関（WHO）の定義では「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること」として、ウェルビーイング（well-being）の概念を用いています。ウェルビーイングの主な要素として、以下の3種類が提唱されています。

- 1) 心（精神的）：精神的な安定や、生きがい、充実感などを感じている状態。
- 2) 身体（肉体的）：病気や不調がないだけでなく、心身ともに活発で健康な状態。
- 3) 社会（社会的）：家族、友人、仕事仲間などと良好な人間関係を築き、社会的なつながりの中で満たされている状態。

形成外科手術及び治療で得られる整容と機能の向上は、肉体的、精神的、そして社会的に満たされた状態であるウェルビーイングを支えているのです。

しかし、本邦では整容面の重要性や体表面に疾患を持つ患者の訴えについて、社会的に理解が深いとは言えません。整容面の重要性に関する理解を広げることは、上記のようにウェルビーイングを支えることで、国民の福祉や生活の質の向上、さらに精神的な健康寿命の延長にも結びつく重要なものです。

第69回日本形成外科学会総会学術集会において、形成外科で扱う整容性に関する治療概念として、「アピアランス・サージャリー」が提唱されました。この概念を社会に

広げ国民の福祉向上に結びつけることが、形成外科の社会的な役割と意義と考えます。

日本形成外科学会学会員と形成外科専門医は、先天性異常、外傷・創傷外科、組織再建、腫瘍手術、美容外科などのさまざまな分野に関して、あらゆる身体部位において手術技術に関する教育やトレーニングを受けています。私たちは形成外科学における幅広い知識と経験、深い研究力、優れた手術技能を共有しております。アピアランス・サージャリーはこのような形成外科学に裏打ちされるべきものです。そして、これは美容外科・美容医療のみを扱う学術団体との違いでもあることを強調したいと考えます。

2026年7月

日本形成外科学会

アピアランスに関する Special Interest Group